

研究主題

今日的な教育の動向から

<新学習指導要領の改訂のポイント>

- 未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成
- 社会に開かれた教育課程を重視
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視
- 知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成
- 道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実
- 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」
- 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

児童の実態から

<学校教育目標の具現化>

- い・・・意欲をもって学ぶ子
学カゲンゲン
 - な・・・仲良く協力する子
心ホカホカ
 - さ・・・最後までがんばる子
元気モリモリ
- 物怖じせずに堂々と自分の考えを語る
 - 協力して話し合い、課題を解決する
 - 主体的に発信や実践を行う

研究主題

「自ら学び、磨き合い、自分の思いを実現していく子どもの育成」

～主体的・対話的で深い学びを意識した学習を通して～

めざす児童像

「自分の課題をもち、主体的に追究活動を行う中で、友達と協力して話し合い、課題解決に向けて試行錯誤しながら、自信をもって自分の思いを表現することができる子ども」

社会の要請から

- 21世紀の社会像としての「知識基盤社会」についての認識を継承する。
 - グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速度的な変化に向き合う姿勢。
 - 知識の量を問うだけでなく、身に付けた知識を活用していく資質や能力。
 - 多様性を尊重する姿勢、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性。
- 21世紀を担う子どもたちに必要な能力を身に付けさせる。

これまでの研究の歩みから

- H12 単元開発、学習課程の研究
生活科・総合の研究スタート
- H15 省エネ共和国建国
- H21 九州小学校生活科・総合的な学習の時間
研究大会開催
- H24 長崎市・県指定生活科・総合的な学習の
時間研究発表
- H27 長崎市指定研究「学力向上」研究発表

研究の重点内容

カリキュラム・マネジメント

- PDCA のサイクルで改善
- 「スタートカリキュラム」の作成と実践
- 各学年での「なめらかなスタート」
- 校務分掌「カリキュラム・マネジメント担当」
- 各教科等の単元構想の作成演習

不断の授業改善

- 生活科・総合的な学習の時間の研究成果を他教科・領域へ
- 研究授業だけにとどまらない授業公開
- 習得する授業場面と探究する授業場面
- 見方・考え方を意識した授業づくり
- 授業実践を通して教師の力を高める

主体的・対話的に深く学ぶ教師

学びのインフラ整備

- 学習規律は徹底、継続して指導
- キーワードは「そろえる」
- 学力ぐんぐんタイムを組織的に運用
- 家庭学習の充実
- ノート指導や板書の申し合わせ

校内研修の充実

- ワークショップ型研修スタイルの継承
- 主体性、協働性、創造性を重視
- 子どもと共に探究する教師

カリキュラム・マネジメント

長崎市立稲佐小学校 第3学年 カリキュラム表(1学期) H29.3.30作成

学校教育目標	心ホカホカ、学力グングン、元気モリモリな稲佐っ子を育てよう		育てたい資質・能力	自分の考えをもつ主体的に取り組む姿勢
学年目標	トライ！！			
行事	4月	5月	6月	7月
行事	始業式、歓迎遠足	運動会		終業式
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○きつぎの商売 ○国語辞典のつかい方 ○漢字の音と訓 	<ul style="list-style-type: none"> ○春の楽しみ ○よい聞き手になろう ○言葉で遊ぼう こまを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ○気になる記号 ○漢字の広場 ○夏の楽しみ 	<ul style="list-style-type: none"> ○もうすぐ雨に ○「ありがとう」をつたえよう ○本を使って読べよう
総合	<ul style="list-style-type: none"> 4/1 ← 130円 3/11 297 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムってなあに ○稲佐の町の好きなどこ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ききかきかきさんの証を贈る 	<ul style="list-style-type: none"> ○稲佐の自慢を知らせたいという思いを持つ ○自分たちの課題を決める
特活	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生になって 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊遊のしかた 	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○学校のまわりをたんけんしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校のまわりをたんけんしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○長崎市をたんけんしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○長崎市をたんけんしよう

昨年度末に作成した「0次案」を見直しのために1学期末に朱書きした3年生のカリキュラム表

各教科、領域の年間指導計画を作成するだけでなく、PDCAのサイクルで改善を重ね、本校の強みである生活科・総合的な学習の時間を核として内容や学び方を関連させています。

また、作成を通して1年間を「俯瞰」し、内容の系統性や関連を捉えることができるようにしています。

学期ごとに見直しを行い、朱入りのものと打ち替えたものを重ねて保管し、次年度へ引き継ぎます。

1年生の「スタートカリキュラム」の作成と実践を行いました。特に入学式から運動会が終わるころまでの期間は詳細なものを作成することができました。また、入学式後の1週間は朝の会を学年で行うことで、なめらかなスタートを切ることができました。さらに1時間目は生活科、国語科、音楽科をモジュールとして扱い、弾力的な運用にチャレンジしてみました。

時期	4月 第1週～第2週	4月 第3週～第4週
ねらい	・心をほぐし、学校に対する安心感をもつことができる。 ・先生や友達と仲良くしようとするができる。	・自分では自分でやろうとする。 ・新しい集団のルールを受け入れることができる。
一人一人が安心感を持ち、楽しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習	○廊下や階段の歩き方(知る) ○7かべへの道の通し方 ○集団下校時の確認と下校の仕方 ○歓迎集会・歓迎遠足 ○給食の準備の仕方・食べ方・片付け方 ○身体測定 ○トイレのスリッパの並べ方 ○相式・様式・トイレの使い方 ○靴箱の使い方(両手で揃える) ○プリントの折り方、しまい方 ○帰る支度の仕方 ○下校の仕方(引率有り) ○元気な挨拶や返事の仕方 ○遊ったとき、してほしい時の言葉	○避難訓練 ○食事中のマナー(知る) ○給食の挨拶(食への感謝の気持ち) ○決められた時間でのトイレ利用 ○手洗い・うがいの仕方 ○朝の会・帰りの会の話の聞き方 ○身体測定 ○トイレのスリッパの並べ方 ○チャイム・時計(0の時)への意識 ○車中・立ち方 ○机の中の整理整頓の仕方 ○プリントのきれいなしまい方 ○帰る支度の仕方 ○安全な下校の仕方(引率無し) ○いろいろな場面での挨拶の仕方 ○感謝の気持ちの伝え方 ○適当な声の大きさ ○してよいこと・よくないこと(知る) ○集団ゲームでの遊び方
一自立、自主		○運動会 ○掃除の仕方 ○決められた! ○給食のマナー ○給食の配膳 ○手洗い・手! ○汗の拭き方 ○水分補給の! ○早急のトイレ! ○一日の予定! ○チャイム・! ○連絡帳の書き ○筆習い練習! ○相手を見た! ○自分から元! ○集団行動で! ○行事での集!

1年 1週目の朝の会

行事	10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)
入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式
手遊び					
8:15～8:40	1 あいさつ 2 ひにち 3 けんこうかんさつ ※返事の仕方	1 あいさつ 2 ひにち 3 けんこうかんさつ	1 あいさつ 2 ひにち 3 けんこうかんさつ	1 あいさつ 2 ひにち 3 けんこうかんさつ	1 あいさつ 2 ひにち 3 けんこうかんさつ
8:40～8:55	4 うたとともだち 「一年生になったら」 「1年1組」 「大きな木の下で」	4 うたとともだち 「一年生になったら」 「1年1組」 「大きな木の下で」	4 うたとともだち 「一年生になったら」 「1年1組」 「大きな木の下で」	4 うたとともだち 「一年生になったら」 「1年1組」 「大きな木の下で」	4 うたとともだち 「一年生になったら」 「1年1組」 「大きな木の下で」
8:55～9:10	5 せんどうともだち ○拡大絵本の読み聞かせ ・感想発表	5 せんどうともだち ○拡大絵本の読み聞かせ ・感想発表	5 せんどうともだち ○拡大絵本の読み聞かせ ・感想発表	5 せんどうともだち ○拡大絵本の読み聞かせ ・感想発表	5 せんどうともだち ○拡大絵本の読み聞かせ ・感想発表
9:10～9:25	6 せんせいともだち ○1年の先生	6 せんせいともだち ○1年の先生	6 せんせいともだち ○1年の先生	6 せんせいともだち ○1年の先生	6 せんせいともだち ○1年の先生

15分間×3のモジュール

さんつくろう」	「わたしがっこう どんどこ」(2) 「がっこうたんけん」 しゅつぽつ 「がっこうのいろいろなるを みにいこう」 ○自分たちで探検に行く準備 ・挨拶・マナーの確認 ・教室、施設、学校生活を支えている人たち	にうていでも 「こうしゃの もういちど ○校庭探検」 「きていおし」 「たんけんてみつ ○表現活動」
---------	--	--

1年生のスタートカリキュラム

不断の授業改善

これまでの生活科・総合的な学習の時間の研究成果を他教科・領域へも広げ、単元構想や単位時間の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点で見直すことにより、よりよい授業にしていこうと目指して授業実践を重ねてきました。

全体で参観・協議する研究授業だけでなく、同学年や隣接学年で気軽な雰囲気での互いの授業を見せ合うことができるのは本校の伝統的なよさです。

「主体的・対話的で深い学び」はそれぞれ独立したのではなく一体のものとして考えていますが、授業を構想したり協議したりするときはそれぞれの視点から捉えるようにしています。

また、一単位時間の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で学習を見通したり、振り返ったりする場面をどこに設定するか、対話する場面をどこに設定するかなど意図的・計画的に考えなければならないことから、授業改善と単元構想、カリキュラム・マネジメントは切り離せないものと考えています。

「主体的・対話的で深い学び」の視点は、特定の学習・指導の型や方法の在り方ではなく、習得・活用・探究の学習過程全体を見通した不断の授業改善の視点です。本校には、これまでの「生活科・総合的な学習の時間」の研究で培われた「いなさの学び」がありました。これは一単位時間の学習過程の工夫、学習規律の徹底、学習意欲の喚起・継続、学習成果や振り返りの共有、発信といった学びの場面を位置付けたものです。本研究は、この生活科・総合的な学習の時間の「いなさの学び」を他教科へ広げるといことへのチャレンジであると考えています。

教科における「いなさの学び」(探究)

導入	○全員挙手 ねらい・学習の心構え・気構えの雰囲気をつくる。 ○三人発表(教師が全員挙手の児童の中から3人を指名する) ねらい・児童に前時の「めあて」と「まとめ」、本時の意気込みを意欲させる。 (留意点) ノートを見ながら、前時のふりかえり等を確認させてもよい。 ○「めあて」を引き出す問題や体験等(必要に応じて) ねらい・探究心が湧くめあてを立てることができる。
展開	○めあて ねらい・「何をするか」を児童にわからせる。 (留意点) 本時のねらいの確認とまとめの文言を決めてから、めあてを考え、めあてが授業の軸がぶれない。 ○見通し ねらい・めあてを解決していくための糸口を共有していくために、追究していく見方(視点)・考え方(思考)を考え、自力解決や学び合いに主体的に参画させていく。 ○自力解決(追究1) ねらい・「見通し」で共有した視点や思考を参考にしながら、自分なりに考えたり調べたりしていく。 ○学び合い(追究2) ねらい・自力で解決が難しい状況または複数で学び合った方が、自分の考えたことがより深まっていくであろう状況で、話し合ったり、教えてもらったりすることを通して、本時のめあて解決に向かうことができる。 ○まとめ ねらい・本時で「何を学んだのか」を振り返らせる。
終末	○振り返り ねらい・本時での学びの振り返りを文章で表現させることで、自らの学びについて意識させる。 (留意点) 視点を決めて書くか、またはフリーに書くかは発表各教科ごとに統一するか、発達段階に合わせるか共通理解しておく。発表教科以外は、発表教科の取り決めを踏まえながら各学年で合わせていく。

より主体的に



今年度の実践の多くが単元を通した課題を設定したり、学習計画を立てたりすることで見通しをもって取り組めるように工夫したのになっていました。たとえ何年生になったら何をするというのがわかっていとしても、それをしっかり自分事、自分の思いにするということが大切であると考え、単元の導入などでは児童に課題意識や必要感をもたせることを意識しています。

また、子どもたちが自分自身をしっかりと見つめていく力、自分の高まりをしっかりと捉える力は主体的な学びにつながっていると考え、「振り返り」を大切にしています。単位時間ごとに振り返りをするのは定着してきましたが、単元のまとめりと、学期・年間など長いスパンでの振り返りについては今後取り組んでみたい課題であります。「継続・蓄積」を合言葉に検討を始めているところです。

より対話的に



単元を構想する際には、どの時間にどんな話題で対話させるのかを十分吟味するように心がけています。ただ対話させるのではなく、子どもが対話を求める状態にすることを意識して授業づくりをしています。子どもは、自分の考えに不安があるときや他との考えにズレを感じたときなどに対話を必要とすることが授業研究を通してわかってきました。

また、対話的な学びには3つの価値があると言われています。

- ①多くの情報を得ること
- ②対話から新たな知を構築する、考えを構築していくこと
- ③生きて働く知識や技能の習得、汎用的な知識に高めていくこと

「何が何でも対話を」ということではなく、このような対話の「要件」や「価値」を意識しながら単元の中に意図的・計画的に活動を設定するようにしています。

より深い学びへ

見方・考え方

「深い学び」のカギは教科等の「見方・考え方」であると言われています。

イメージとしては…

各教科等で、その教科ならではの「見方・考え方」を身に付けるだけでなく、答えのない課題に直面した時、頭の引き出しから、それまでに教科等で身に付けてきた見方・考え方を自在に取り出したり、戻したりなど試行錯誤しながら、自分なりの解決策・答えにたどり着く。このような学びではないでしょうか。

本校では、カリキュラム・マネジメントや単元構想とも関連させ、単に教科等の内容だけではなく、他教科等で学んだどんな「力」が授業場面のどこで発揮されているかということを意識するようにしています。今年度はこの「見方・考え方」を授業者が単元構想や単位時間の授業の中でより意識できるように取り組んでみました。

学びのインフラ整備

本校では、学習を支える学習規律や学習環境などを「学びのインフラ」と呼んで充実を図っている。学習規律については6年間で切れ目なく徹底・継続して指導し、次の学年へつなげることを意識しています。また、全校で「そろえる」ところは確実にそろえ、組織的な取組になるようにしています。

学習環境

身構え・心構え
ものからだこころ

ノート指導

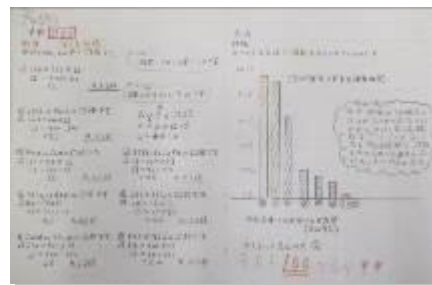
よいノートづくりの奨励

学力ぐんぐんタイム

アシストシート、単元問題の活用

家庭学習

全校一斉金曜宿題



校内研修の充実



本校では平成18年度から鳴門教育大学（当時）の村川雅弘教授の御指導を仰ぎ、ワークショップ型の研修を取り入れています。

<ワークショップ型研修のメリット>

主体性

参加者全員が主体的に参加し、多面的な気付きや考えを積極的に出し合うことができる。

協働性

参加者が成果や課題、改善の仕方などについて共有し合い、互いの実践に生かすことができる。

創造性

具体的なアイデア・方法を出し合い、よりよい授業づくりや指導に反映させることができる。

全職員が「主体的・協働的・創造的に参加する研修」

～子供と共に探究する教師～

成果と課題

児童観察や教師へのアンケート調査、全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果などから総合的に判断すると、次のような成果と課題が明らかになりました。（*は、全国学力学習状況調査質問紙より。全国平均との比較。）

